



世代交代。

～大好きな豊中のために何ができるか、一緒に考えましょう～

松岡あきみち豊中ビジョン 2018

温故創新

豊中を明るく元気にしたい！！
豊中に人や企業が集まってくるため、
豊中を選んでもらうため、
豊中といえば〇〇！！というブランドが必要です。

豊中には豊中独自の歴史と文化があります。
こうしたオリジナリティーをしっかりと過去に学びたいと思います。
そのうえで新しいものを創り、これからの歴史を創ります。

私たちが元気になれば、豊中も元気になる。
私たちが豊中を愛するように、
豊中に愛されていることを感じる町にしたい。

私のビジョンの多くは府や国の権限に属するもの、
法律改正が必要になるものがあります。
4年の任期では、どうにもならないことが多くあります。
しかしながら、豊中を明るく元気にするため、
国や府へ丁寧に説明し、将来を見据えて予算をつけながら実行していきます。

半世紀後を見届けられる責任世代。
私が先頭にたち、将来の夢と希望と憧れをもてる豊中を創ります。
豊中が「私たちの暮らしを守り、豊かにする」ことを目指します。

豊中は財政非常事態が常態化している十余年のあいだに、
多くの市町村の背中を見ながら走るようになりました。
追いつくため、追い越すため、先頭を走るため、
温故創新の理念のもと、とよなか創政記を進めることに、
ご理解いただきたいと思います。

平成 30 年 4 月 2 日

まつおかあきみち
松岡信道

しがらみにタックル、みなさんとスクラム、改革にトライ

<はじめまして、松岡あきみちです>

0. 信じる道をすすむ。

<出馬に際して>

1. 豊中のみなさまへ。

<選挙に行く前に知ってほしいこと>

2. 哀訴～私が市長になる理由

<豊中が目指すべき4つの都市像>

3. とよなか創政記

<基本理念と4つのトライ>

4. みんなが豊中のために、豊中はみんなのために。

<感情論ではない冷静な議論を>

5. 半世紀後の豊中を見据えて

<おまけ>

6. 豊中の歴史

0. 信じる道をすすむ。

私はしんでん幼稚園、市立南丘小学校、市立第九中学校と豊中の公教育をうけ、豊中の地域力に育てていただきました。幼少期を振り返ると、幼稚園を抜け出すくらいのやんちゃな少年でしたが、学級委員はもちろん、児童会長、生徒会長、中学生シンポジウム実行委員長を務めて常に人の輪に入り、みんなで議論し、行動し、いつも学校づくりを考える子どもであったと思います。中学で生徒会長の時に夏服のカッターシャツをポロシャツにすること決め、地域の制服屋さんが慌てて学校に押し掛けたというエピソードは今でも懐かしい思い出です。

高校に進学してからはラグビーに明け暮れる毎日でしたが、鎖骨骨折をきっかけに生徒会長を務めました。生徒会予算の再編成、学校行事の刷新、海外の高校との姉妹校提携など、やはり学校づくりに必死の学生であったと思います。今でも母校に帰ると、当時の行事がそのまま継続されていたりするの、とても感慨深いものがあります。将来の夢を「政治家」と思うようになったのは、まさにこの頃でした。

浪人という挫折を経験して大学に進学すると、私は政治学を専攻するかたわら、地域づくりやまちづくりを考えるようになりました。親の転居にともない箕面市民となっていました。箕面市民というご縁だけで西川きよし参議院議員（当時）の事務所で、国政を学ばせていただき、「私も政治家になりたい」と言うと、「小さなことからコツコツとやりなさい」と叱咤激励されたことは今でも忘れられません。そこで、私は自分の身丈で政治ができると思い、地方政治に関心をもつようになりました。その後、箕面市公共下水道事業運営審議会委員を務め、池田市長のインターンシップ、茨木市議会議員インターンシップを通じて北摂のこと、地方議会のこと、地方行政のことを学ばせていただきました。私の議員活動の礎がここにあったことは間違いありません。

JA バンク大阪に就職して、私は親から独立するため豊中市に戻りました。仕事は融資を担当することで経済、社会、金融はもちろん、農業、環境、食育、消費生活に関わることを学びました。数多くの会社を訪問し、企業経営、財務、法務なども勉強させていただきました。こうした経験が議員としての専門分野になっていることは言うまでもありません。就職してからも NPO を立ち上げて教育支援のボランティアをするなど、まちづくりを忘れることはありませんでした。

政治の道を志し、退職しました。無職で過ごした期間は、仲間に支えられました。

私は、自分の信じる道をすすみたいと思います。

そして、みなさんと一緒に豊中のことを考え、

この豊中から日本を動かしていきたいと思います。

1. 豊中のみなさんへ

こんな私が 26 歳で豊中市議会議員に立候補したのは、多くの竹馬の友が就職や結婚を機に、相次いで豊中市から転居していくのを黙って見ていられなかったからです。

若い世代が集い、壮年世代が支え、老年世代が安心してらせる町にしたい。そのためにしなければならなかったのは、財政再建です。自分の専門分野を活かした集中と選択の取り組みを提言してきましたが、総花的な市政運営がなされています。根本的な財政再建は行われず、いまだ赤字体質です。私が老年になったとき、「おまえ、何しててん」と言われぬように、責任世代として今からしっかりとまちづくりをしていきたいと思えます。

市議会議員 36 人の 1 人として、市政改革を行ってきました。無所属新人ながら、市議会でも 30 年ぶりとなる新しい会派を結成したり、思想信条を越えて、議会改革に結束したこともありました。その結果、「名誉の市議会」から「働く市議会」に変わりつつあります。

幹事長を務めた時、新型インフルエンザが猛威を振るいました。未知のウイルスに対策をとるべく、市議会を動かし、勉強会の開催、幼稚園・保育園への空気清浄機の早期導入が実現しました。また、空港問題調査特別委員会の副委員長の時、航路直下に住む被害住民との懇談会を 30 年ぶりに開催しました。そして、空港の利便性を享受している事業者との懇談会を市議会ですべて初めて開催し、これまで豊中市が避けてきた問題と向き合ってきました。そして、豊中市と伊丹市で運営するごみ処理場のクリーンランド議員の時には、資金繰りを見直し、将来にわたって 6 億円の節税を実現できる見通しとなりました。また、汚泥から発生するメタンガスの売却を提案し、20 年間で 4 億円の歳入確保を実現しました。

このように、議員として積極果敢に市政改革にトライしてきました。しかしながら、36 人の 1 人ではスピードが遅すぎます。東京オリンピックをきっかけに大阪国際空港の国際便復活を提言しましたが、多数には至りませんでした。社会の変化に対応し、国政や府政を動かすため、私をオンリーワンにさせていただいて、働かせていただきたいと思えます。

住民としては、校庭緑化に取り組み、市内 6 小学校の芝生化に関わりました。うち 1 校は大阪府下（1015 小学校）で 2 校だけの芝生化シンボル校を誘致することができました。その結果、幼稚園の園庭緑化が市の独自施策となり、現在 1 園が芝生の園庭となりました。また、東日本大震災をきっかけにして、帰宅困難者体験訓練を地域で連携して実施しました。新御堂筋沿道の自治会や企業と協力し、豊中市はもちろん、今は吹田市や淀川区など、近隣自治体も協力してくださっています。

行政主導の市政改革は限界に達し、「もう待てない」というのが市民の声であると同時に、政治主導の改革が求められています。そのためには、住民一人ひとりが発意し、行政を動かしていく決意が必要不可欠です。そうでない限り、豊中は決してよくなりません。

「今、豊中市の舵をきるために私ができることは、みなさんの選択肢になることです。大好きな豊中市のために何ができるのか、みなさんも一緒に考えませんか。」

2. 哀訴～私が市長になる理由

私は「市長になりたい」のではなく、後述する政治改革を実現するためには、人事権や予算編成権をもつ「市長にならないとできない」のです。そして、「豊中にも若い市長をつくろう」という後押しを受け、「市長にならないとできない」ことに挑戦しようと思います。

予算編成権で議会を活性化し、人事権で職員の意識を変え、そうして市民のみなさんの関心を市政へ向けることができれば、つまり政治改革が実現すれば、私は市長を退任するつもりです。そして、その時にまだ元気があれば、もう一度、市議会議員に戻りたいくらい誇りをもって働いています。

私が実現したい政治改革は、三つの変化です。

一つ目は議員と議会が自立するよう変わらなければいけません。地方自治は二元代表制であり、与党、野党という言葉そのものが馴染みません。地方議員は政治学を学び、「与党だから賛成、反対したら野党」というような固定概念を変えなくてはなりません。そして、何をしているかわからない市議会ではなく、働く市議会にしていくということです、議員定数や報酬を削減することが目的になるのではなく、いかに議会を活性化するか、市民のみなさんから注目してもらえるような市議会にしなければいけません。

二つ目は、行政職員の意識も変わらなくてはなりません。与党議員だから予算を計上する、野党議員だからまともな回答をしないということではなく、市民代表の集合体である議会から民意をしっかりとバランスよく汲み取る必要があります。組織内部の都合や自分の昇格を意識した仕事ではなく、市民と同じ目線で市民のために働き、「ありがとう」と言ってもらえるよう、やる気を出して頑張る職員が評価される仕組みが必要です。

最後の三つ目に変わらなければならないのは、有権者です。議員と職員が変われば、おのずと議会や行政を信頼していただけると思います。議員も職員も頑張っているにもかかわらず、市民のみなさんが無関心では議会や市役所の士気を下げてしまうどころか、緊張感のない怠け者に化けさせてしまいます。とくに「参加しない無関心」に対して、自覚していただくなくてはなりません。

こうして市民から関心をむけてもらい、信頼される市役所、活性化した市議会となれば、豊中市は必ず良くなります。私が市長になって、三つの変化を実現すべく、しっかり頑張りたいと思います。

3. とよなか創政記

スポーツ・音楽都市

教育文化都市

緑と水の環境都市

International city

豊中市は市制施行 25 周年を機に安全都市宣言（1961 年）をして以来、平和都市宣言（1965）、非核平和都市宣言（1983 年）、人権擁護都市宣言（1984 年）、青少年健全育成都市宣言（1985 年）、自治体環境宣言（1993 年）をしています。

とりわけ、非核平和、人権擁護、青少年健全育成を「三つの願い」とし、都市宣言モニュメントになっています。庄内駅東口に設置されていますので、ぜひ一度ご覧ください。

こうした都市宣言の精神を礎とし、豊中市が目指すべき 4 つの都市像をご提案させていただきます。

スポーツ・音楽都市

- ① 豊中市は**高校スポーツ（野球、サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール）の発祥地**です。これらの第一回大会は豊中市で開催され、甲子園、国立競技場、花園ラグビー場の起源は、今はなき豊中球場です。これらを豊中の強化スポーツと位置づけ、こうした史実をもっと PR し、官民一体となった施策展開、関連する商品開発や販売をしていきたいと思えます。
- ② 現在、豊中市が誇る高校スポーツは**チアリーディング**です。箕面自由学園、梅花高校のチアリーディング部は日本屈指のチームであり、全国大会の決勝戦同士の共演が、豊中市の千里体育館でも見られることはあまり知られていません。学校教育とも連携し、**市民スポーツとして、チアリーディングのすそ野を広げていきたい**と思えます。
- ③ 豊中市には立派な武道館があり、立派な 3 面とれる 120 畳の柔道場が一つの魅力です。また、大阪では先駆けて弓道場を整備してきました。**柔道、剣道、弓道といった日本武道を大切にしていきたい**と考えています。文武両道の子どもたちを育み、健全育成につなげていきます。

- ④ 豊中市には**大阪音楽大学**があり、**音楽家に恵まれた町**です。したがって市民の間でも音楽は浸透しており、豊中市立中学校の吹奏楽部は全国でも優秀な成績を修めていることに加え、豊中市合唱協会は創立 50 年、豊中市青少年吹奏楽団は創立 40 年、豊中市消防音楽隊は創立 30 年を経過しています。こうした音楽にまつわる市民文化を活かして、まちなのにぎわいを創造していきます。
- ⑤ 豊中市には**野外音楽堂**があり、**日本センチュリー交響楽団の本拠地**になっています。あまり知られていないのは、服部緑地が大阪府の管轄になっているからです。将来的な展望として、**大阪府から服部緑地の移譲を受け、ここに音楽の拠点づくり**をしていきます。

緑と水の環境都市

- ① 豊中市歌では「**緑の都、豊中市**」というのがキーワードになっています。しかしながら、豊中市が緑の都であったのは、今は昔の物語。そんな豊中市を緑あふれる町にしていきます。**校庭緑化、屋上緑化、壁面緑化**など官民一体となって、みどり率を高め、地球環境の保全と癒しのまちを目指していききたいと思います。
- ② 豊中市の市有緑地には竹林が多いです。こうした竹林を整備し、市民ボランティアの方とも協働しながら、**竹ブランド**を築いていこうと思います。竹細工はもちろん、竹炭や竹チップ肥料の商品化、生産された「たけのこ」は給食に利用したいと思います。
- ③ 緑と水に親しむまちづくりをすすめ、**緑が目につく景観、美しい小川**を目指します。また、植生を守るための在来種の保護、野生動物の保護にも努めていきます。大きくは地球環境保全に取り組み、市内のノンフロン化を推進します。
- ④ 公園の利用目的別に整備し、バランス良い再配置を目指します。そのなかで、廃止や集約化により魅力ある公園づくりを進めます。当面の利用されない私有地（空き家の除却後など）にレモンやキンモクセイを植樹することで、固定資産税を減免するような仕組みを検討します。
- ⑤ ゴミの削減はもちろん、中古品としての再利用、使えなくなったものの再資源化を徹底し、循環型社会を実現していきます。ゴミ処理場、汚水処理場における再生可能エネルギーの有効活用に努めます。

教育文化都市

- ① 児童会・生徒会活動を重視し、豊中の将来を担うリーダーの育成を目指します。母校での成人式を推進し、同窓会活動を支援します。
- ② 就学前児童に対する子育て支援をバックアップするため、幼児教育の充実を図り、民間事業者と連携した子育て体制を整備します。豊中は公文式の発展地であることから、公立学校と民間事業者とが連携して、学習指導の充実を図ります。
- ③ 教育文化局を設置し、社会教育においては教育委員会から市長部局への事務委任や併任辞令により、効果的な行政サービスを実施する。また、学校教育においては、0歳から18歳までの成長に責任をもてる教育体制を整えていきます。
- ④ 豊中の歴史、文化財、伝統芸能などを守るだけではなく、積極的に活用します。手塚治虫さん、山田洋次さんの生誕地であることからアニメや漫画、映画を通じてまちを活性化していきます。また三島由紀夫さんゆかりの地であることから、子どもたちの読書活動を推進します。図書館の集約化と中央図書館を整備します。
- ⑤ ノーベル賞を受賞された故南部陽一郎さんが名誉市民であったこと、東洋初のロボット学天則を発明した西村真琴さんゆかりの地であることから、科学教育を推進します。また、天然記念物であるマチカネワニの化石、国の重要文化財である大塚甲冑、承久の乱発端の地などの有形無形の文化財を活かし、歴史教材として保管・展示します。

International city

- ① 美食家で有名な北大路魯山人さんがつくった大阪星岡茶寮は、豊中市にありました。そしてミシュランガイドに掲載されるレストランが豊中に所在します。美食を通じ、観光や行楽として、世界から人が集まるための工夫をしていきます。また、トレーサビリティにもこだわり、食の安全を追求していきます。
- ② 豊中市は独自で取水して浄化し飲料水をつくる技術もっています。また、大阪府と兵庫県から委託されるだけの高度な汚水浄化技術もっています。こうしたノウハウを活かし、2025年には世界全体で100兆円市場と言われる水道事業の国際貢献に取り組みます。こうした技術力の提供などで新たな歳入確保を模索します。
- ③ 安心して子育てできる町を目指すため、顔の見える地域づくりを目指します。世界一を誇る豊中の救命力を堅持し、大震災にそなえた防災力を育むため、地域自治推進条例を

地域防災条例へと改正します。地域と繋がり、自治会へ参加することでソーシャルピヤピタルを高め、安全安心の信頼社会を築いていきます。

- ④ 大阪国際空港の**国際線復便**を 2019 年ラグビーW杯、2020 年東京五輪をラストチャンスと位置付け、**外国公館とも連携**して活動します。また 2025 年大阪万博開催のため、豊中市にできることを検討しています。
- ⑤ **姉妹都市であるカリフォルニア州サンマテオ市**との交流をベースにした、交換留学や経済交流を実施していきます。また、南部活性化の起爆剤として「SHONAI」をスロージョーガンにインバウンドによる活性化を図ります。
- ⑥ **コナミホールディングス発祥の地**であることや、**日本初の国産ビールを醸造した渋谷庄三郎氏ゆかりの地**であることから、ゲームやアミューズメントで世界へ TOYONAKA を発信し、モンドセレクションに選ばれるような豊中地酒を開発します。

4. みんなが豊中のために、豊中はみんなのために

ラグーマンの精神に「One for all, All for one」というのがあります。それを私なりに翻訳して、基本理念としました。ここでいう「みんな」とは、市民はもちろん、通勤通学で豊中市を利用される人、豊中から巣立っていった人、豊中に関わる人の総称です。豊中に関わる一人一人が、豊中を再生しよう意識していただかないと、町は変わりません。そして、町が関わってくださる人のほうをむいていかないと、意識は成熟しません。

豊中市には公民分館や校区福祉委員会という制度があり、地域行事などを地域のみなさんが担ってくださっています。もうひとつワンランク上の制度にして、街灯をなおす、道路を掃除する、足の不自由な方を車で送迎するといったことまで、お願いできないでしょうか。もちろん、かかる費用は市が負担します。

地方分権時代の「地域分権」です。地域のみなさんが話し合って、みなさんでやっていただくことで、みなさんが求めている順序で行政サービスが提供されるようになります。高度成長で税収が右肩上がりの時は、なんでも市役所ができました。しかし、人口減少社会では限られた税収を配分するにあたり、きめ細やかなサービスはこれからも難しくなります。したがって、方向性は市が決定し、地域のみなさんに権限を委譲し、知り合いなどを通じて、できるだけタイムリーで安価にやっていきましょう。

例えば、行政が公共交通でバスを走らせようとする、3年かかります。しかし、交通不便地の当事者は3年待てません。3年間だけ送迎車両の運行を地域でお願いできれば、必要最低限の公費負担となり、タイムリーで安価な課題解決ができるでしょう。行政に求めるだけでなく、住民として何ができるのか、一緒に考えて欲しいです。

日頃、豊中のためにご尽力いただいているみなさんには、心から感謝しなくてははいけないと思います。これまでの豊中市を築いてくださった先人には敬意を表します。しかし、築かれた一部分が時代に合わなくなったことも事実です。過去に固執するあまり変化を求めない現状では、閉塞感から突破できません。とくに豊中市域の100%が市街化され、社会の変化とともに、私たちの暮らしが大きく変化するなかで、「豊中らしさ」を感じる部分は本当に少なくなってきています。「豊中市に住んでよかった」と思える、「豊中ってこんないいところがあるよ」と言いたくなる、そんな誇れる町にしていくためには豊中市が、利害関係者だけでなく、みんなのほうを向いて仕事をしなくてははいけません。市と利害関係にある「声の大きな少数意見」だけでなく、利害関係のないサイレント・マジョリティー（声なき多数意見）を意識して、市政運営を行っていくべきだと思います。

豊中を元気にするための4つのトライ

トライ1. 子どもが笑う、大人が喜ぶ豊中に

■明るく豊かな生活がおくれる豊中に

- ・将来世代に負担を残さない財政運営 → 収入の範囲内で予算を組むことを前提に
- ・若者が結婚、出産しやすい環境整備 → 就労支援、結婚支援、定住子育て減税
- ・元気で長生きするための高齢者支援 → 予防医学普及、健康サポートの実施

■安心して子どもを産み、育てられる豊中に

- ・共に働き、共に子育てできる保育環境整備 → 幼児教育の充実
- ・家庭教育を徹底するための支援 → 家庭訪問や子ども食堂を通じた子育て支援
- ・障がい者や高齢者も住みよい環境 → グループホームの整備、森友学園施設の活用

■子どもが夢をもてる豊中に

- ・義務教育の多様性と充実 → 幼保と小学校の連携、小中一貫・中高連携教育の実施
- ・教育環境の整理、マンパワーの充実 → 南部コラボは建設、小中一貫校は凍結
- ・夢をもった子どもを育てる学校教育 → (仮称)教育指導内容提案制度の整備※

※先生が個人、チームで実施したい授業(学習指導案)を提案し、審査を経て交付金支出。

トライ2. 財政を健全化し、減税を目指す豊中に

■人件費は経常収支比率構成比の30%未満に

- ・職員の優秀な人材確保のため給与水準の向上 → 定数、給与・諸手当の体系的見直し
- ・将来に負担を残さない職員体制を整備 → 退職手当分割支給、退職手当基金の創設
- ・職員雇用のあり方を多様化 → 民間と人事交流、試用期間やインターンシップの実施

■市有資産の有効活用と売却、不良資産の議論

- ・学校の空き教室の貸出、公共空間を利用したイベント → 歳入の増加を図る
- ・不動産開発基金の創設 → 処分とあわせ、隣接地や大規模な土地は購入
- ・市有資産をフル活用した歳入確保 → 定期借地、屋外広告、命名権譲渡などを推進

■毎年、一定額を積み立てる財務構造に

- ・災害などの支出に備えていきます → 財政健全化後、市税収入の一部を積み立てます。
- ・積立金の効率運用 → 減税や公共料金を引き下げる自治体を目指します。
- ・公会計の明朗化 → 入札差金は、とりあえず財政調整基金に戻入する。
- ・歳入の多角化 → クラウドファンディング、ふるさと納税による市民税の流出抑制

トライ3. ものづくりと商いが栄える豊中に

■ブランド力のある豊中に

- ・集客力のある豊中の実現 → 兄弟都市の沖縄市と姉妹都市サンマテオ市との連携強化
- ・「ものづくりの町、とよなか」としてのPR → 積極的な企業誘致
- ・阪急、モノレール、北急でとよなか回廊の実現 → 東西交通バス路線の実施

■中小企業を支える豊中に

- ・府下第五位の事業所数を支援 → 事業継承のためのアレンジャーとして働く
- ・市内消費による産業支援 → 店舗主の自主的な活動への支援を実施
- ・豊中ブランドの共同開発や商品PR → 豊中発の起業支援、アンテナショップ設置

■消費したくなる豊中に

- ・食を活かしたにぎわいづくり → 豊中ミシュランガイドの製作、B級グルメの奨励
- ・トイレットペーパー騒動、コンビニ発祥地 → マイバッグ推進など消費行動の最先端
→ IC決済を公共施設利用料に
- ・大阪星岡茶寮の史実をもとに → 一流の素材とシェフによる美食レストランを検討

トライ4. 愛を感じ、誇れる豊中に

■世界にはばたく豊中に

- ・百兆円市場と言われる水道事業の強化に取り組みます → 上下水道局のあり方を検討
- ・教育における姉妹都市サンマテオ市との連携 → 交換留学、語学力の向上
- ・市民の国際交流を盛んにするための取組み → 外郭団体改革
- ・在阪の外国総領事館との連携 → 外国人との市民交流を図る

■政治が動く豊中に

- ・市長と議員の政治主導で豊中の未来を検討します → (仮称)豊中市政懇談会を設置
- ・市長と市民が意見交換できる場を設定します → タウンミーティングの開催
- ・各専門分野から豊中市に助言いただきます → 豊中市政顧問の設置

■人に恵まれる豊中に

- ・豊中出身の著名人による講演を定期的で開催 → 豊中トークリレーの実施
- ・市役所に優秀な人材が集まる取組み → 大学生の官庁訪問、インターンシップ受入
- ・豊中のために活躍してくれる人材の育成 → 若者世代への投資を検討
- ・定住化を促進するための施策 → 単身赴任世帯への支援、自治会加入の推進
→ 住めば住むほど貯まる自治体ポイントを検討
- ・社会的弱者の支援 → チャリティー精神の普及と持続可能なセーフティネット

5. 半世紀後の豊中を見据えて

私たち政治家は、目の前の課題だけではなく、豊中市を長期スパンで考え、次の世代へバトンタッチしていかななくてはなりません。

さて、半世紀後の日本、大阪、そして豊中はどうなっているのでしょうか？人口は一億人を下回り、大阪府は大阪都になっているかもしれません。そうなると、豊中市も今のままあり続けるのか、他市と合併して政令市になっているのか、わかりません。豊中区になっているかもしれません。

私が市長となって在任中には、もし大阪市がなくなったとしても、豊中市は絶対に豊中区にはしません。なぜなら、権限、財源を大阪都に集約されるだけで、豊中市にはメリットがないからです。

もし大阪市がなくならなかつたら、豊中市は政令市を志向するのかどうかを検討すべきだと思います。なぜなら、人口減少社会の中で豊中市だけが活性化することは考えにくいからです。現在も行政の広域化や水平連携は分野ごとに行われていますが、これも限界に達した時、おのずと昭和、平成につづく、大合併時代が到来するでしょう。

豊中市がどうなるかというような、よもやま話はさておき、現実的に豊中の将来を左右する現実的な課題があります。根本的には公共事業のばらまきなどは実施しません。しかし、一つハコモノを建設すれば、寿命は半世紀に及びますし、一朝一夕にはなしえないまちづくりや教育など、以下に掲げる取り組みは豊中の半世紀後を見通して、必要であれば思いきった公共投資しなければならないと思われる事案です。

① 庄内小学校における小中一貫校の建設は凍結

⇒学校設置基準を満たさない運動場、遊歩道の移設が不可能なため、立ち止まる。しかし、小中連携は必要なため、通学区域を変更する【分割校解消】

② 森友学園校舎を有効活用するために取り組む

⇒まずは建物内部の状況を所有者の了解を得て調査するなどの情報収集をはじめめる。山積みの土砂の撤去、未整備のままの歩道工事、夜間照明を国に求める。市有施設の再配置の中で必要であれば、購入を含めて検討する。

③ 全市的な小中学校の統合は必要

⇒統廃合は「お金をかけない」「借地は返還」「創立順序を重んじる」ことを前

堤に丁寧に説明し、中学校同士、小学校同士の統合を原則として進める。

④ 市立義務教育学校（小中一貫校）、市立高校の設置を検討

⇒私学抜けを防ぐための義務教育学校、市立高校の設置を検討する。とりわけ南部に高校がないことから進路保障を通信制、定時制なども含めて検討する。

⑤ 大阪国際空港の国際線復便のための活動

⇒新潟市の事例のように在外公館と連携したエアラインの復便要望活動などを始める。国際線復便は2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピックがラストチャンスと位置付けて行動する。

⑥（仮称）大阪国際空港線に途中駅を検討

⇒西部のまちづくりの起爆剤として検討する。財源、イニシャルコスト、ランニングコストなどを精査し、阪急電鉄と連携して豊中市西部に民間投資を誘導する。

⑦ 東西バス路線の実施にあわせた交通空白地解消

⇒東西交通の強化とあわせて、交通空白地は解消する。東西交通を実現し、阪急宝塚線、大阪モノレール、地下鉄御堂筋線で豊中公共交通回廊を完成させる。周遊パスなどを発行し、観光しやすい町にする。

⑧ 南部コラボによる公共施設の再配置

⇒老朽化している南部の公共施設を再配置するため、南部コラボを六中跡地に建設する。施設の管理運営は指定管理者制度を活用し、民間ノウハウを活かした公共施設とする。

⑨ 庄内本気予算、庄内再開発基金の設置

⇒庄内本気予算として、毎年1億円を予算計上する。あわせて庄内再開発基金を創設し、庄内本気予算の執行がない場合は、基金積み立てる。また、公共施設再配置などで生み出される土地売却益などは基金に積み立て、再開発にともなう費用は見える化する。

⑩ 神崎川流域の防災対策とあわせた阪急神戸線駅舎の再配置

⇒阪急神戸線が神崎川の堤防を切っていることから、線路の嵩上げにあわせて堤防を構築し、神崎川駅舎を豊中市へ誘導する。その後、流域自治体にあるような防災船着き場は必要。

⑪ 千里セルシーの建替えなどニュータウン再生

⇒民間投資にあわせて公共投資を行い、北大阪急行延伸後も千里中央が寂れることなく、活気あふれる大阪新都心を目指す。

⑫ 民間による自衛隊跡地の開発

⇒民間投資にあわせて公共投資を行い、豊中で最後の大規模一等地を市内外から注目を浴びる場所にする必要がある。

⑬ 若年世代の活性化のための結婚支援、子育て支援

⇒民間活力を導入した結婚支援を行い、生涯未婚率に歯止めかける。子育て支援を充実し、若者世代の定住化を推進する。

⑭ 市内各級選挙における投票率の向上のための取り組み

⇒ただ単に投票率を向上させるだけでなく、考えて投票することの重要性を伝える学校教育を展開する。民主主義の練習である、児童会選挙や生徒会選挙を公立学校で充実させる。

⑮ 図書館再配置と中央図書館構想とあわせて歴史博物施設

⇒少子高齢化、ネット社会、モータリゼーションにより読書のあり方も変わりつつあるので、図書館の統廃合とあわせた中央図書館構想を策定する。あわせて、天然記念物であるマチカネワニの化石や国の重要文化財である大塚古墳の甲冑などを保管・展示できる歴史博物施設をも検討する。

～あとがき～

2015年に副議長をさせていただき、豊中市や豊中市議会を俯瞰的に見ることができました。2016年には議員活動が十年の節目を迎え、十年一昔と言いますが、議員になった当初と比べると、豊中市は財政状況をはじめ、ずいぶん良くなったと感じました。2017年、市議会の議論が活発化し、9月議会では委員会採決とは異なる本会議採決があったり、12月議会では徹夜議会も経験しました。2018年になり、突如として現職市長の不出馬を受け、市議会が騒然としているなかで、4年に一度のローカルマニフェストの更新をしています。

8年前、市長選挙に出馬表明しながらも断念せざるをえなかった事実。その十字架を背負いながら、ここまで頑張ってきました。臥薪嘗胆の期間を終えようとしています。

6. 豊中の歴史

私たちが住んでいる豊中市はどんな歴史を歩んできたのでしょうか？少しずつここに書き足していきますので、豊中の歴史旅行を一緒にお楽しみください。

待兼山で45万年前のマチカネワニの化石が発見されました。その時の豊中の姿は想像もできませんが、平成5年10月30日に発行されている文化財ニュースによると、縄文時代前期の「縄文海進」と呼ばれる6千年前には、海岸線が今の服部と曾根の間くらいであったようです。

その後、海岸線は後退し、今の豊中市域が誕生し、人が暮らし、弥生時代と古墳時代の過渡期に位置付けられる歴史資料としても有名な庄内式土器が生まれます。人々の暮らしのなかでは争いがあった証拠として、勝部遺跡収蔵庫にある弥生時代の木棺には矢じりが刺さったままの人骨が納められています。

古墳時代に入り、豊中にも多くの古墳がつくられました。大塚古墳から出土した甲冑は国指定の重要文化財にもなっています。飛鳥時代になると豊中市内には古代寺院が見られるようになります。金寺山廃寺かなでらやまはいじでは瓦が出土し、看景寺に移された塔の心柱しんぼしらの礎石は府指定文化財にもなっています。

奈良時代には島熊山が万葉集に詠まれ、平安時代には猪名川流域に集落形成が盛んになり、古代難波宮なにわのみやとの関係で豊中市域は発展していきます。

鎌倉時代になると、春日大社から南郷目代として赴任した今西氏の屋敷は国指定史跡となっていますし、庄本地域にあった棕橋庄くらはししょうという荘園は承久の乱発端の地と言われています。

室町時代に原田氏が構えた原田城は、戦国時代の荒木村重討伐の出城となり、『信長公記』には織田信長が刀根山城で指揮をとったと記されています。豊中市史によると、この頃には明智光秀の娘が今西氏の当主に嫁いでいます。戦国時代の大名が娘を嫁がせるくらい豊中市域はとても暮らしの良いところであったのではないのでしょうか。

江戸時代以降の話はまたにしましょう、おやすみなさい。